

付属配管の接続方法

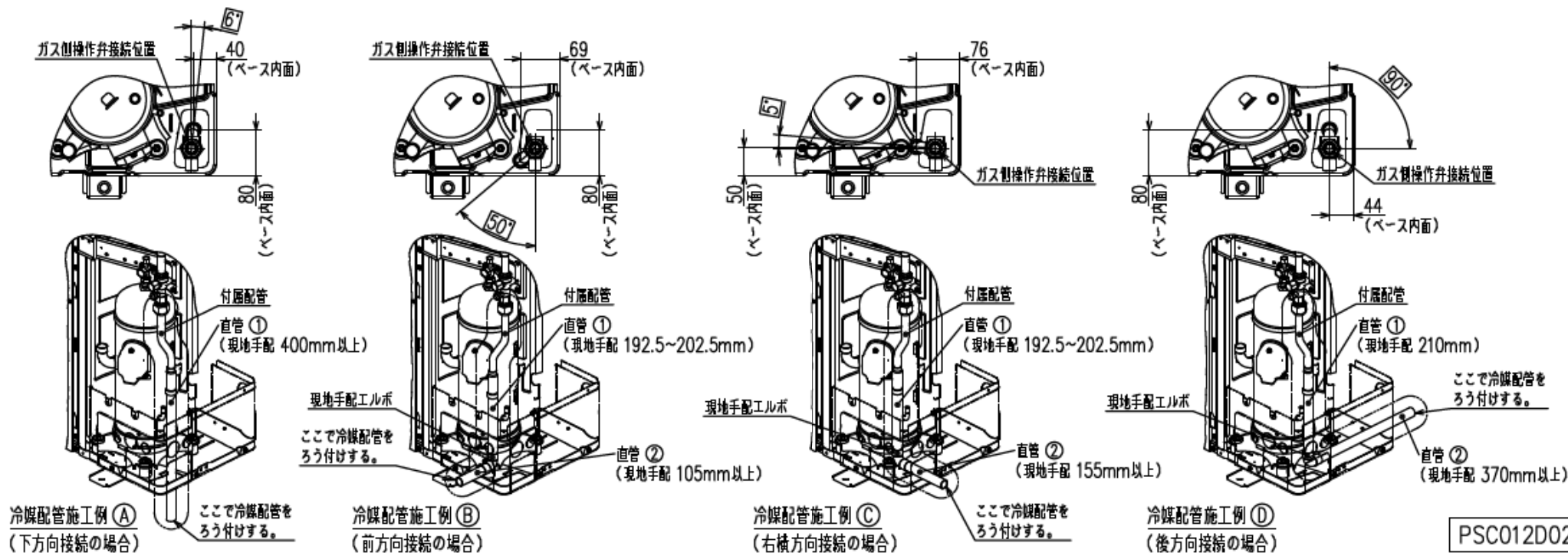
- ガス側操作弁と冷媒配管の接続には必ず付属配管を使用してください。
- 直管(現地手配)は室外機能力に応じて、表1に示す配管仕様を必ず使用してください。
- フレア締め付けに際しては、配管のフレア面を操作弁に密着させ確実に接続してください。
- 現地配管と付属配管をろう付けする時、フレア接続部に無理な力が掛からないことを確認してください。
無理な力が掛かっていると、フレア接続部からガス漏れすることがあります。
- 付属配管の接続は、以下の①～⑤の手順に従い施工してください。
 - ①表2、表3を参考にして、接続方向に応じた施工例(A)～(D)に使用する直管及びエルボを現地に準備してください。
 - ②まず、室外ユニットの外で、付属配管を用いて組立し、ろう付けします。
(冷媒配管施工例(A)～(D)(二点鎖線)に組立例を示します。)
 - ③ろう付けした接続用配管を室外ユニット内のガス側操作弁と接続します。
フレアナットは適正トルクにて締め付けてください。

適正トルク	
φ19.05	100~120N・m

- ④ 室外ユニット内のガス側操作弁へ接続後、ろう付けした接続用配管と渡り配管をろう付けしてください。
- ⑤ 接続用配管が配線に接触する恐れのある場合は、断熱材等で保護してください。
(配線が配管に擦れ被膜が剥がれると、短路、漏電の恐れがあります。)

【接続方向に応じた施工例(A)～(D)】

- 付属配管取付け角度(図中□部)は、断熱材厚15mmの場合の例です。
現地で使用する断熱仕様に応じて、取付け角度を調整し、渡り配管を抜き穴に通してください。
その際に配管に無理な力が掛からないよう、ご注意ください。



ろう付けについて

- ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。
窒素ガスを流さないで多量の異物(酸化皮膜)が生成され、キャピラリーチューブや膨張弁詰まりによる致命的故障の原因となります。

表1 室外接続配管仕様

配管仕様
φ25.4 x T1.0

- 必ず1/2H材、肉厚1mm以上の配管をご使用ください(0材では耐圧が不足します)。

表2 接続用配管使用部品

No.	名称	個数	備考
1	付属配管	1	付属品
2	直管①	1	現地手配
3	直管②	1又は0	現地手配(下方向時不要)
4	エルボ	1又は0	現地手配(下方向時不要)

表3 直管(現地手配)の長さ及び仕様

	① 下方向	② 前方向	③ 右横方向	④ 後方向
直管①	400mm以上	192.5~202.5mm	192.5~202.5mm	210mm
直管②	—	105mm以上	155mm以上	370mm以上



付属配管 x 1個

付属配管に断熱材をバンド止めてありますので施工の際はバンドを切り、インシュレーションを取り外してから、ご使用ください。